長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１２２

# みんなの居場所

**裏面の話題**

**みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。**

令和５年１０月５日(木)

明日、子供達は通知表をもらいます。ご家庭ではどのような会話が繰り広げられているのか気になるところです。誰しも褒められると嬉しいものです。ぜひ、伸びたところを誉めてあげてください。

さて、早いもので１０月、あと３か月ほどでお正月…、そんなことを考えていると、少々焦りを感じてしまいます。有意義な時間を過ごしていきたいと思ってはいるものの、思うだけでも時間は過ぎていき、更に焦ることに。

秋本番、これから年末にかけては何をするにも良い季節です。学校でも学習に、運動に全力で頑張っています。時間を大切にして頑張りましょう。

## 修学旅行の思い出　その①

６年生の平和に関する学習がスタートして、子供達の中にも真剣さと楽しみにしているという気持ちがヒシヒシと伝わってきます。学びの多い行事にしたいものです。

今でこそ、立場上「修学旅行は学習ですよ。」とお話をしていますが、とはいえ「思い出づくり」の側面を子供達は期待しているようです。私にも修学旅行の思い出があります。本当に楽しかった。少しお話してみましょう。

昭和５３年のことです。確か秋だったと思います。熊本市内を出発して我らが長洲港へ。そして多比良港に渡り、当時、そこから仁田峠へ行きました。雲仙普賢岳はまだ噴火前ですからね。その後、長崎水族館に行ったことを思い出します。この水族館、今はありません。教師となって一度だけこの水族館に行きましたが、随分と古くなっていたことを覚えています。

その後、長崎市内へと入って行くのですが、初日は今と同じで学習の側面がとても強かったと思います。平和公園、原爆資料館…。当時の原爆資料館は建て替わる前のもので、子供心に少し怖い印象でした。でも、強く「戦争はいけない」と思った経験でしたね。宿泊は部屋から長崎市内の夜景が見える施設だったので、初めて見る夜景に感動し、それが影響したのか、学生時代はバイクで何度も行ったことを思い出します。

２日目は、大浦天主堂とグラバー園に行きました。ここでも初めて目にする教会のステンドグラスや洋館群に、「外国ってこんなんだ…」と憧れに似た心情が湧いた場面でした。その後、大浦天主堂の近くのお店で買い物済ませたような気がします。当時のお小遣いは確か２０００円だったと思います。何とも言えない船の置物やキーホルダー等を買った…、詳しくは忘れました。

小学生時代の修学旅行でインパクトがあったのは、仲の良い友達が好きな女の子にあげるんだと言って、ハート形のキーホルダーを買っていたことです。これには私達の様な幼い少年達は変に興奮して、その友達に「誰にあげるんだ?」としつこく聞いたものでした。こうして、少しずつ思春期に入り込んでいき、背伸びをしたり、打ちのめされたりしながら、精神的に大人になっていくのでしょうね。その①はこの辺で。

## シリーズ「自分を語る」＃１２２

「初めまして、中央小学校の澤田です。来年度よりお世話になります。」

「期待してるよ。」

「できる範囲で頑張ります。」

「それじゃダメ、エンジン全開でお願いね。じゃないとうちではやっていけないよ。」

「・・・(またこのパターンか・・・)」　何かしらあるのでしょう?

またか…と思いつつ、求められているのだ、前に進むのだと自分に言い聞かせました。

さて、平成２４年度スタートは、主幹教諭として合志市立南ヶ丘小学校でした。何をしていいのか全くといっていいほど分からず、主幹教諭とは何ぞやを確認する作業からでした。学校教育法３７条にはこうあります。

「主幹教諭は、校長（副校長を置く小学校にあっては、校長及び副校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる。」

この条文からすると、主幹教諭は校長先生と教頭先生のお仕事を少しずつやって、授業もしなさいよ!ってことですね。正に何でも屋?ってかんじです。

当時（今もかもしれません。）は主幹教諭の職務については、配置された学校によってかなり差があったようです。しかも、主幹教諭の認知度も低く、南ヶ丘小学校の職員は「主幹教諭って何をする人?」という職員も多かったようでした。着任当初、普通は前任者と引継ぎ作業を行うのですが、それも無く、ただ校長先生と教頭先生とどんな仕事をしていくのか１日かけて話し合った事を思い出します。他校からの情報も集めました。

という訳で、平成２４年度は５年生の算数を数時間持たせて頂く他は、全学年の学級サポートと教頭先生の事務のサポートを行うことになりました。が、この時に割り振られた仕事が予定通りに進むことはありませんでした。詳しく書くと問題が生じることもありますので、概略とその時の私自身の心の動きを中心に書いていきますね。着任直後、私は教頭先生に愚痴ばかり言っていましたね。「担任ばかりしていたせいか、中々事務仕事にはモチベーションが…。」そんなことを言っていれば叱られて当然です。ある日教頭先生から言われました。「澤田主幹、認められてここにいるんだから、そんなことばかり言っていたら職員に影響が出るよ。俺も含めて。」さすがにこれじゃいかんと思いました。そこから少し気持ちを入れ替えて、自分にできる仕事を探すという時間が始まりました。主体的に課題を探し主体的に解決をする時間でした…、と言うものの、私がやっていた仕事は学校宛のメールを確認する、外部からの文書の整理等、これまでにやっていた業務とは真逆の世界のものです。そんな私を以前の同僚や教え子たちはかなり心配していたようでした。

着任から１ヶ月、２年生のクラスに異変が起こりました。

後になって考えてみると、こんな時?のために私が赴任したのかなぁと感じます。目の前にいる子供達が苦しんでいるのを放ってはおけません。どうもこの学級では、正義ではなくやんちゃな力が支配するような状態だったようです。

ある日校長室に呼ばれ・・・、「主幹、学級のサポートお願い。」　私は命に従うしかありませんし、学校の非常事態という危機感を持ちつつ、不謹慎にも子供達との出会いを楽しみにしていました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）